

平成 28 年度に係る部局評価

1. 附属図書館
2. 文学研究科・文学部
3. 人間科学研究科・人間科学部
4. 外国語学部
5. 法学研究科・法学部
6. 経済学研究科・経済学部
7. 理学研究科・理学部
8. 医学系研究科・医学部（医学科）
9. 医学系研究科・医学部（保健学科）
10. 医学部附属病院
11. 歯学研究科・歯学部
12. 歯学部附属病院
13. 薬学研究科・薬学部
14. 工学研究科・工学部
15. 基礎工学研究科・基礎工学部
16. 言語文化研究科
17. 国際公共政策研究科
18. 情報科学研究科
19. 生命機能研究科
20. 高等司法研究科
21. 連合小児発達学研究科
22. 微生物病研究所
23. 産業科学研究所
24. 蛋白質研究所
25. 社会経済研究所
26. 接合科学研究所
27. 低温センター
28. 超高压電子顕微鏡センター
29. ラジオアイソトープ総合センター
30. 環境安全研究管理センター
31. 国際教育交流センター
32. 生物工学国際交流センター
33. 太陽エネルギー化学研究センター
34. 総合学術博物館
35. 保健センター
36. 国際医工情報センター
37. 数理・データ科学教育研究センター
38. 科学機器リノベーション・工作支援センター
39. 日本語日本文化教育センター
40. ナノサイエンスデザイン教育研究センター
41. 知的財産センター
42. 核物理研究センター
43. サイバーメディアセンター
44. レーザーエネルギー学研究センター
45. 免疫学フロンティア研究センター
46. CO デザインセンター
47. 全学教育推進機構

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 附属図書館

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	—	A

【評価区分1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 生命科学図書館の改修によるラーニングコモンズスペースの拡張、同図書館への TA 配置など、教育支援機能の強化を図っており、同図書館の入館者数も平成 26、27 年度と比較して増加していることが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 経営企画オフィス URA 部門との共同企画による研究成果発信能力の強化に資するワークショップの開催など、注目できる取組を行っている。次年度以降は同様の取組による具体的な成果(参加者の論文掲載など)の報告を期待する。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 文学部・文学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	28年度計画に対して達成状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	28年度計画に対して達成状況が良好であることが認められる。 「くずし字学習支援アプリ(KuLA)」の自習用図書を当研究科教授が執筆・刊行するなど、研究成果の社会への展開も積極的に進められている。
【社会貢献】	A	28年度計画に対して達成状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	28年度計画に対して達成状況が優れていることが認められる。 グローバル人材育成のため、新たに雇用した海外での学位取得教員による「アカデミック・ライティング」を開講するとともに、大学院等高度副プログラムでの「グローバル・ジャパン・スタディーズ」のプログラム提供を進めたことが評価できる。
【業務運営】	A	28年度計画に対して達成状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名：人間科学部・人間科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 学部の改組に伴って積極的なカリキュラム再編も推進し、大学院授業への基礎科目の新設、アクティブラーニングの導入、さらに社会貢献活動に学生を取り込み単位化するなど、着実に教育改革を推進していることが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 大学と市民の双方向の社会貢献を実現するために部局内に「未来共創センター」を設置し、同センターが拠点となり、さまざまな社会貢献活動を実施・充実させていることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 WEB サイト内に、高校生(受験生)向けのコンテンツを追加したり、外部組織との連携により大学案内の発送システムを構築するなど、ターゲットを意識した広報を実施していることが評価できる。 また、部局として積極的に女性教員比率の向上に努めている点も評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 外国語学部

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢 献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 海外との交流協定数を順調に増加させるとともに、マルチリンガル・エキスパート養成プログラムを平成 29 年度から双方向性の教育プログラムへ発展させたことや、接合科学研究所等と連携を図りつつ、「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業」を推進していることなどが特筆できる。
【業務運 営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 法学部・法学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 平成 29 年度から実施する法学部早期卒業制度の準備作業のために高等 司法研究科・法学研究科・国際公共政策研究科との協議を行い、3研究科へ の合格者を対象とする早期卒業制度を構築し、学部と大学院教育とのシーム レスな連携の基礎を固めたことが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 経済学部・経済学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 自己評価において、海外の機関との交流協定の締結実績を上げていただいているが、その結果どのようなことが可能になったかなど、具体的な成果を記載いただけるとよりよいと考える。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 女性教員を教授として採用したことや、部局内の国際交流に関する組織を統合し、業務の効率化を図るとともに、包括的な国際交流活動を推進する業務運営体制を整えたことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 理学部・理学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 医学系研究科、核物理研究センターと協力し、「新規医療イノベーションのためのシンポジウム 2016」を開催した。また、企業5社を含む α線内用療法研究会を立ち上げ、2回実施した。さらに企業1社との共同研究を開始したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 医学(医学科)・医学系研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 部局独自の奨学金を活用した海外留学の奨励などにより、学生の海外派遣人数が顕著に増加している。海外協定校数についても、1年間で9機関増やすなど、学生の派遣先の確保も積極的に進めていることが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 平成 28 年にノーベル医学生理学賞の対象となったオートファジー研究に焦点を当てた「オートファジーセンター」を我が国で初めて設置し、当該領域研究のさらなる発展への体制整備を行っていることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブの活動を通じて、同年度中に民間企業と 14 件の包括連携協定を締結したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【財務】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 医学部・医学系研究科(保健学科)

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 社会人対象の講座・セミナーを各種開催し、医療職、介護職、行政職などから高く評価されていることが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 スーダン共和国と、へき地医療改善に関する共同研究を開始するなど、保健学の分野における国際的な共同研究も確実に実施していることが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 医学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 治験や先進医療でも実施していない未承認薬などを、患者の申し出を 起点に実施できる「患者申出療養制度」を利用した同院からの届出が、全 国で 2 例目の事案として厚生労働省に承認されたこと、日本医療研究開 発機構 (AMED) の国際共同臨床研究実施推進事業に採択された、全国で 2 か所のための医療機関のひとつとして国際研究を推進できる環境を整えた ことなど、研究基盤を強化する体制づくりを進めていることが評価でき る。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 海外からの渡航受診促進のため、受入実績のある病院として MEJ(メディカ ルエクセレンスジャパン) 評価委員会の審査を受審し、全国初の「ジャパ ンインターナショナルホスピタルズ」として推奨を受けた 4 つの国立大学附属病院の うちのひとつとなったことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 歯学部・歯学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 学部学生を対象とする「大阪大学歯学部同窓会奨学金」を新設し、今年度 2 名採用した。また大学院学生を対象とする「福西・日浦歯科口腔外科奨学金」制度により、来年度から奨学生の選考を開始するなど、教育環境の改善を進めたことが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 産学連携の成果として、歯周病治療のための歯周組織再生剤・リグロス(健康保険適用)の販売を開始するなど、研究成果を積極的な産学連携に結び付けている点が評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 歯学部附属病院

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 歯病全体で電子カルテの入力を診療後遅滞なく実施するよう努めた結果、平成 27 年度平均 14 分であった会計での待ち時間が、平成 28 年度2月までに平均7分と短縮できたことが評価できる。
【その他】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 外国人患者の診療支援を目的とする多言語(日・英・韓・中)対応のタブレットとマニュアルを各診療科へ導入するなどの取組の結果、外国人患者数が 27 年度と比べ 121%増の 178 名に達するとともに、国籍についてもアジアだけでなく北南米・欧州・アフリカなど、世界 35 か国(27 年度と比べ 12 か国増)に亘り、一層グローバル化が進展したことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 薬学部・薬学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 実施に向けた準備を進めるとしていた大学院講義の英語化の一部、協定校で実施している海外研修、PharmD コース学生の海外研修の学部・研究科授業科目としての単位化について、準備のみならず実施に至ったことが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 独自の海外派遣プログラムを実施(受け入れ6名(中国)、派遣 19 名(米国、中国))した。また新たに「スーパーグローバル大学創成支援事業賞」を設置し、当研究科に留学し、学業成績が優秀であり、国際交流に尽力した学生(大学院生を含む)を対象に表彰するなど、教育のグローバル化に対しても積極的な実践を行ったことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名:工学部・工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 東京大学との共催による産学連携シンポジウムの開催、産学連携学会平成 28 年度業績賞の受賞及び同研究科共同研究講座教員の産学官連携功労者表彰の受章は、同研究科の基本理念に掲げる共同研究講座システムの高度化を体現するものであり、取組状況が評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【広報】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【キャンパス環境】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 基礎工学部・基礎工学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 英語のみで修了できるコース数を大幅に増加させ、全領域(前期・後期合せて 22)で修了できることになったこと。また、日本人が英語による授業科目のみで修了可能な学位プログラム数も増えつつあるなどの成果があったことが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 附属スピントロニクス学術連携研究教育センターを設置、ネットワーク型の研究を推進し、240 件の論文発表、84 件の共同研究プロジェクト実施という成果を上げたことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【広報】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 広報企画推進室の教員を中心に、Web 広報 WG、オープンキャンパス WG、学部説明会 WG、大学院説明会 WG を設置し広報を強化した。部局の Web を改善し、受験生を主な対象とする Web スマートフォン版を立上げたことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 言語文化研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 株式会社ピクセラとの共同研究「字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究」を開始した。文系部局としては極めてまれな産学連携の共同研究で、平成 28 年 11 月 14 日に本学が開催した記者懇談会でその概要を発表したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 文系部局として、株式会社ピクセラとの共同研究「字幕の機械翻訳における翻訳品質改善の研究」を開始したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「英語力強化タスクフォース」に協力し、本学学生の英語力強化について提言を取りまとめるとともに、「大阪大学マルチリンガル教育センター」(仮称)の構想において、グローバル化に対応した言語教育の改革案を策定したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 国際公共政策研究科

【評価区分 1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分 1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 評定を A とはしているものの、シンガポール経営大学のほか、メキシコ大学院大学、台湾成功大学、フリブール大学法学部(スイス)、国際移住機関との間で学術交流協定を締結するなど、グローバル化に資する活動が認められることが評価できる。今後本協定に立脚したグローバルな活動に期待がかかる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 情報科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1：部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」のビッグデータ・AI 分野の運営拠点として選定された。運営拠点では、同分野を含む4分野間の連携のための体制を構築するなどの成果を上げていることが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 新たに2つの協働研究所を同時に稼働させ、脳情報通信融合研究センター(CiNet)などと連携して、大学院生までも参画する形で、産学が協調して複合領域研究を推進したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 生命機能研究科

【評価区分 1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分 2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分 1 及び評価区分 2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分 1: 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 海外の卒業時期に合わせた入試制度と Skype を用いた海外在住受験生との面接制度等により、正規学生に占める外国人留学生の割合が増加した。また、研究科長のリーダーシップにより、外国語による授業科目 3 科目を新設し、教育のグローバル化がさらに進展したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 高等司法研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 評価は A であるものの、学習支援体制の強化を図るため、管理者提供コンテンツとして法律文書錬成講座の出題趣旨等を提供し、従前の約 3 倍となるアクセス数 100 件を超えたこと、また、再チャレンジ勉強会においては、科目選択型グループの構想を変更し、法律文書錬成講座(添削付き)を新設し、最大 74 名の学生が参加するなどの成果を上げていることは評価できる。 一方で、男女協働推進に関しては、当初計画していた講演会セミナーの開催がなされなかったため、一層の推進が求められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 連合小児発達科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 受託研究を継続中の大阪府、堺市、池田市等にとどまらず、新たに西宮市との受託研究が締結され、子どものこころを支援する事業が多角的に展開され、発達障害の問題に取り組んでいる自治体に好影響を与えたことが評価できる。 また、医学部附属病院にて「子どものこころの診療センター」を開設し、精神科・小児科共同で発達障害児・者の診療に当たる体制を整えるなど、新たな活動も進めていることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名：微生物病研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 同研究所所属教員の論文(小児下痢症の主要病原ウイルスであるロタウイルスの人工合成に世界で初めて成功)が PNAS 誌(IF:10)に掲載され、新規ワクチンの開発に向けた大きなブレークスルーとして多数のメディアで紹介されるなど、顕著な研究成果をあげていることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 平成 28 年 4 月に、アウトリーチの推進を目的として広報室を設置し、中学生や高校生を対象としたイベントを開催するなど、ターゲットを明確にしたアウトリーチイベントを多数開催したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名：産業科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 部局予算の組み替えにより、独自に RA 予算を確保し、博士後期課程学生 32 名(76 名中、JSPS 特別研究員等 44 名)への経済的支援 100%を達成したことが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 世界最大のエレクトロニクス研究機関である imec(ベルギー)内に大学機関としては世界初となる ISIR imec Center を平成 29 年 2 月に開設したことが評価できる。
【産学連携】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 既設の企業リサーチパークを拡張し、新規 6 社の入居があり、稼働率 93%を達成したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 定例記者会見などの積極的な情報発信の結果、報道件数が 543 件と H27 年度(254 件)に比較して倍増(2.14 倍)していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 産研における研究教育活動の支援のため、基金「産業科学研究所研究教育支援事業」を設置したことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 蛋白質研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 ゼロだった女性教授を2名採用した結果、教授における女性の比率が 15% となり、大きな改善を図っている。また、テニユアトラック制の下で、女性の任期なし独立准教授を 1 名認めるなど、研究現場に女性を積極的に登用したこと、新設部門として「多階層蛋白質統合研究部門」を発足させ、平成 27 年度末に導入した最新鋭のクライオ電子顕微鏡を利用した新しい構造生命科学のために研究体制の変革を行ったことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「多階層蛋白質統合研究部門」に、クロス・アポイントメント制度を用いて外国人特任准教授(常勤)を1名、大阪大学の補助を活用して外国人特任助教(常勤)を1名雇用し、教育のグローバル化に対応したことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 社会経済研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 学際研究を推進し、経済学分野の学術誌のみならず、自然科学系のトップジャーナルにも論文を公刊したことが評価できる。また、科学研究費(基盤 S)を利用して、多くの大規模アンケートを実施したことは評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 テレビや、ラジオそして新聞紙面で、多くの研究成果の発表や情報提供をしており、アウトリーチ活動を活発にされていることは評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 海外からの教員採用に積極的に取り組み、その結果、国際公募により講師 1 名(カナダより)を採用し、クロス・アポイントメント制度により 2 名の海外研究者を採用したことが評価できる。
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 接合科学研究所

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「学際・国際的高度人材育成ライフイノベーションマテリアル創製共同研究プロジェクト」を開始し、共同利用・共同研究拠点を含む全国的な拠点間連携による学際融合・異分野融合研究を推進したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 新たに「高度ジョイント生産システム構築」協働研究部門を設置し、従来の2つの協働研究部門との連携を通じて産学連携を推進したこと、また新たに「溶接構造の疲労性能設計手法国際拠点」を設立したことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 (一社)日本溶接協会と協力して作成し、年間約 2 万件のアクセスがあるデジタルコミック「浪速博士の溶接がってん!R」の英語版を発刊し、研究成果を分かりやすくグローバルに展開したことが評価できる。
【業務運営】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 「接合プロセス」、「接合機構」、「接合評価」の 3 研究部門と、「スマートプロセス研究センター」が“個の力”を発揮しつつ、相互が有機的に連携することにより、溶接・接合技術のイノベーション創出を通して、人類社会に貢献することを目的に、平成 28 年 4 月に改組を実施したことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 低温センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	B	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 老朽化が進む吹田分室のヘリウム液化装置について、平成 28 年度国立大学法人先端研究等施設整備費補助金での改善のための予算が認められ、入札実施を経て請負業者が決定し、平成 29 年度に設置・稼働の予定。設備マスタープランで計画されていた大きな計画が達成されたことが評価できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 超高压電子顕微鏡センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 材料科学や、医学生物学への応用、理論・観察手法の開発を着実に推進するとともに、超顕微科学研究拠点事業の一環として、電顕用パルス電子源の開発・応用による新分野創成を目的とした企業との共同研究により、超顕微科学のための新しい電顕用電子源開発に貢献したことが評価できる。また、多くの論文業績が得られていることも評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 企業や研究機関との間で共同研究講座や、共同研究を積極的に推進することにより、先端電子顕微鏡改正手法の確立などを通じて、製品開発や人材育成に貢献したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： ラジオアイソトープ総合センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 環境安全研究管理センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	B	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	<p>平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。</p> <p>年度計画において定めた化学物質に係る環境保全に関する業務で中心的な役割を担うため、薬品管理支援システムの保守運用[大学年度計画 25-2-1]、化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)、大阪府条例に基づいた該当物質の届出[大学年度計画 25-2-1]・室内作業環境測定[大学年度計画 25-2-1]、実験系廃液の処理[大学年度計画 25-2-1]等について、各計画に基づいて、確実に実施していることが認められる。</p> <p>評定はAであるものの、薬品管理支援システムの保守運用事業では、学内保管薬品登録数を昨年度の 25 万件から 26.5 万件へ増やすなど、本学のリスク管理を着実にしている点が評価できる。</p>

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 国際教育交流センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 生物工学国際交流センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 センターとして運営した海外交流プログラムが3件、受入れた留学生の参加プログラムは8件、海外派遣した本学博士前期課程学生 15 名と国際交流に貢献したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 太陽エネルギー化学研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 太陽光照射により水と酸素から過酸化水素を合成する光触媒の開発で、太陽エネルギー変換効率の世界最高値を達成し、大阪大学から特許を出願したことが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 パナソニック株式会社協働研究所との連携を新たに開始するなど、4件の共同研究を実施したことは評価される。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 総合学術博物館

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	S	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」と関連のミュージアムレクチャー、ワークショップを開催するにあたり、豊中市、豊中市教育委員会との共催により、協賛金 100 万円を得たことが評価できる。
【広報】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【学生支援】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名：保健センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【学生への 支援】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会連携】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【組織運営 の改善】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 学生相談・カウンセリング機能の強化を目的として、保健センターを改組し、 キャンパスライフ支援センターを統合した新たな組織を設置することとなったこと に伴い、両組織が一丸となり、検討を進め、平成 29 年 4 月 1 日に新組織と してキャンパスライフ健康支援センターを設置したことが評価できる。
【リスク 管理】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 国際医工情報センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	B	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 独自の医療機器開発スペシャリスト育成コース「メディカルデバイスデザインコース」の提供を開始した。大阪と東京を LIVE 中継することで、81 名の社会人と 23 名の地域連携大学院学生が受講し、また本学大学院高度副プログラムにも科目提供を行うことで、27 名の大学院生が受講したことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 数理・データ科学教育研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 日独 6 大学学長会議(HeKKSaGOn)数学セッションでウインタースクールを開催し、ドイツ側から 14 名、日本側から 50 名、それ以外の国から 3 名の学生、教員を受け入れて 10 日間にわたって教育研究交流を行い、国際連携教育を実践したことが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名 : 科学機器リノベーション・工作支援センター

【評価区分 1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分 2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分 1 及び評価区分 2 に基づく評価
A	B	A

【評価区分 1 : 部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項 目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: 日本語・日本文化教育センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 私費学部留学生予備教育プログラムにおいて、同年度に初めて理科系の学生を受け入れて予備教育を行い、修了生を出したことが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 拠点事業のうち「教育実習指導事業」において他大学からの教育実習生の受入れが、9 大学から延べ 127 名と多数にのぼったことが評価できる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 聴講学生 29 名が 105 科目、G30 学生 9 名が 12 科目、同センターの提供する授業科目を履修し、さらに学内各部局所属の学生 60 名が同センターの提供する国際交流科目を 278 科目履修するなど、全学の留学生教育に貢献したことが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： ナノサイエンスデザイン教育研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 本学と筑波大学連携のサマースクール(ベルリン工科大学、パリ第 6 大学 よりの講師を招へい)の単位化を実現したことが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 関西ナノテクネットワークに神戸大学、兵庫県立大学が組織として新たに参 画し、正式構成組織が5大学と3公設研究所に拡大したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【広報】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 知的財産センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 特許庁の調査研究「デザインの創作活動の特性に応じた実践的な知的財産権制度の知識修得の在り方に関する調査研究」により、デザイナー志望の学生向けの教材・カリキュラムモデルの作成を行ない、デザイン分野における知的財産教育の普及に貢献するための教材を作成したことが評価できる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 多額の受託研究・研究助成等の採択により、外部資金の獲得に大いに成功したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名:核物理研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 共同研究部門の設置による異分野融合研究の推進など、基本理念に沿った取組を着実に実行していることが評価できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。 評定は A であるものの、福島県飯舘村において、同村と協力しつつ環境放射線について学ぶ学部横断型教育プログラムを実施するなど、教育活動及び社会連携活動を推進している。 また、新学術領域研究の支援を受けた短寿命 RI プラットフォームを他学との連携で立ち上げたことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名:サイバーメディアセンター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育及び 教育支援】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 EEC 総研での環境省事業の受託、次世代 HPC、ビッグデータの共同研究を 推進する NEC との新たな共同研究部門の設置、他大学及び複数の企業との 「津波浸水被害推定システム」の開発など、同センターにおいて、オープンイノ ベーションを着実に推進していることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 同センターが開催する次世代型市民講座について、新たに大阪市と連携す るなど、取組の進展がみられることが評価できる。
【グローバル化 】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名:レーザーエネルギー学研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 量子研及びエコールポリテクニークと協定を締結したことに加え、エコールポリテクニークキャンパス内に連携オフィスを設置し、連携を強化していることが評価できる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 単年度 20 億円の大規模プロジェクトについて、本学の責任部局として産業界と連携した研究開発を開始したことや、放射光とレーザーの融合領域創出を志向した勉強会を学生や企業研究者を対象に開始するなど、産学連携を着実に実施していることが評価できる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名:免疫学フロンティア研究センター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	SS	平成 28 年度計画に対して、取組状況が非常に優れていると認められる。 同研究所教員の世界的な賞の受賞は同研究所における学術研究の推進が特筆すべき状況にあることを示しており、また、基礎・基盤研究の振興を掲げる本学の中期目標の達成に貢献しており、特筆できる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【業務運営】	SS	平成 28 年度計画に対して、取組状況が非常に優れていると認められる。 中外製薬及び大塚製薬との包括連携契約の締結を通じてセンターの運営基盤を確保できていることが特筆できる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名: CO デザインセンター

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
A	A	A

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 大阪大学シンポジウム、阪大フェスタの開催など、関西圏の産官学民のアクターとの連携強化を図っていることが評価できる。
【グローバル化】	—	
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。

平成 28 年度実績に係る部局評価書

部局名： 全学教育推進機構

【評価区分1】 部局年度計画に係る 自己評価に対する評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」に おける年度毎の状況評価】	【総合評価】 評価区分1及び評価区分2 に基づく評価
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評 定	コメント(評定に至った理由)
【教育】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 プレ FD プログラムとしての大学院生向け教育プログラム 3 科目を開講している大学は全国では他になく、最も体系的な教育プログラムとなっている。 教職員向けの FD プログラムも国内大学の中でも最高数を提供していることが評価できる。
【研究】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【社会貢献】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。
【グローバル化】	S	平成 28 年度計画に対して、取組状況が優れていることが認められる。 MOOC 受講者が、2015 年度末から約 18500 名増加し、40170 名に達した。 延べ 174 の国と地域から登録があり、アフリカ・中南米を中心に、阪大が留学生を受け入れていない国からも多くの受講登録があり、教育コンテンツのグローバル展開にも寄与していることが評価できる。
【業務運営】	A	平成 28 年度計画に対して、取組状況が良好であることが認められる。